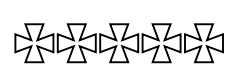


日本獣医師会学会関係情報



日本産業動物獣医学会・日本小動物獣医学会・日本獣医公衆衛生学会

----- 日本獣医師会学会からのお知らせ -----

平成24年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会(大阪市)に参加しましょう

「事前登録」はお済みですか？

平成25年2月9日(土)～11日(月・祝)

大阪国際交流センター、シェラトン都ホテル大阪(大阪府大阪市)

主催：公益社団法人 日本獣医師会 共催：公益社団法人 大阪市獣医師会
協力：近畿地区連合獣医師会 企画協力：公益社団法人 日本獣医学会
後援(予定)：農林水産省、環境省、厚生労働省、文部科学省、日本学術会議、大阪市、大阪府

平成24年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会(大阪市)への参加登録のご案内

平成24年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会(大阪市)への参加方法と登録料金等は以下のとおりです。

区 分		参加登録料 (講演要旨集1冊含)	歓迎交流会参加費	合 計
会 員	事前登録(平成24年12月20日(木)迄)	10,000円	6,000円	16,000円
	当日登録	14,000円	8,000円	22,000円
学生会員	事前登録・当日登録とも	0円	4,000円	4,000円
学生・動物看護師	事前登録・当日登録とも	4,000円	4,000円	8,000円
その他の方	事前登録・当日登録とも	17,000円	10,000円	27,000円

(消費税込)

- 区分について：「会員」は、地方獣医師会会員、日本獣医師会個人賛助会員です。
「学生会員」は、日本獣医師会学生賛助会員です。
「学生」は、「学生会員」以外で大学・専門学校等に在籍する学生の方です。
「その他の方」は、「会員」、「学生会員」、「学生・動物看護師」以外の方です。
- 歓迎交流会について：参加は任意ですが、参加者各位の親睦のため、是非多くの皆様にご参加いただきたくご案内申し上げます。
- 講演要旨集の購入：講演要旨集の購入のみご希望の方は、本大会終了後に在庫がある場合に限り1冊5,000円で販売します。

【参加登録の方法】

本年次大会の事前参加登録は、「インターネット」での登録となっておりますので、年次大会ホームページ(<http://www.jvma2013.jp>)より必ず登録手続きを行ってください。

また、事前参加登録料等のお支払いは、①銀行振込と②オンライン(クレジットカード)決済の2つの方法をお選びいただけます。

【事前参加登録受付期間】平成24年12月20日(木)17:00まで

【登録の流れ】

年次大会ホームページでの「1. 参加登録手続き」→「2. 参加登録料等支払」の流れとなります。

1 参加登録手続き 締切：平成24年12月20日(木)	年次大会ホームページ(http://www.jvma2013.jp)上の申込フォームにて事前参加登録手続きを行ってください。
2 参加登録料等のお支払い 締切：平成25年1月11日(金)	①銀行支払 ※振込先口座情報(指定銀行口座)は、参加申込完了メールに記載いたします。 参加申込完了メールは必ず保存してください。 ※参加申込完了メールに記載された「参加申込番号」を振込用紙の通信欄に必ずご記入ください。また、参加申込者を振込名義人としてお振込みください。 ※振込手数料はご負担いただきますようお願いいたします。 ②オンライン(クレジットカード)決済 ※参加登録手続きに引き続き、年次大会ホームページ上で決済いただけます。

【事前参加登録方法のお問合せ先】

公益社団法人 大阪市獣医師会事務局 TEL: 06-6972-1345 E-mail: office@jvma2013.jp

平成23年度 日本獣医師会獣医学術学会年次大会（北海道）
優秀講演要旨（四国地区）

[日本産業動物獣医学会]

産地区—12

病性鑑定実施鶏におけるアストロウイルスの検索と検出方法の改良

山本英次¹⁾，桃園恵子¹⁾，矢野敦史²⁾

1) 香川県東部家畜保健衛生所，2) 香川県畜産課

はじめに

アストロウイルス（以下，AstV）は人における下痢症原因ウイルスとして広く認識されている。人以外の動物では，豚の下痢症の原因となる豚AstV，七面鳥ひな腸炎死亡率症候群などの七面鳥AstV感染症，アヒルに肝炎を引き起こすアヒルAstV感染症，日本で分離され，実験感染で鶏に腎炎を引き起こすことが証明された鶏腎炎ウイルス（ANV）などが知られている。近年，海外では発育に問題のあるブロイラー鶏群における鶏AstVに関する調査が実施され，鶏AstVの生産性への影響を示唆する報告がなされている。しかし，国内養鶏場におけるAstVに関する調査はほとんど行われていない。また，他の家畜，動物におけるAstVの疫学情報も十分収集されているとはいえない。

目的

鶏AstVの疫学情報収集の第一歩とするため，病性鑑定実施鶏におけるAstV検索を実施した。また，調査に用いた遺伝子検出法を改良し，鳥類，哺乳類AstVについて，その有効性を検討した。

材料及び方法

平成22年4月から12月に実施した，病性鑑定実施鶏（10件6戸37羽）について，その保存臓器（心，肝，腎，脾，肺，気管，腸管）を材料とした。既報（Stacy R Finkbeinerら，2009）のAstV ORF1b領域をターゲットとした共通プライマー（以下，既存プライマー）を用い，PCR法によるAstV遺伝子の検出を試みた。増幅されたPCR産物について，ダイレクトシーケンスによる塩基配列決定を行い，すでに登録されているAstV遺伝子との相同性解析を実施した。PCR陽性検体については，発育鶏卵漿尿膜上接種法によるウイルス分離を実施した。また，既存プライマーの一部を混合塩基とした縮合プライマー（以下，改良プライマー）を新たに作成した。鳥類（鶏）と哺乳類（豚）由来のAstV抽出RNAを10倍段階希釈し，既存プライマーと改良プライマーとの検出感度の比較を実施した。さらに，他の動物種の野外糞便材料を用い，改良プライマーを使用したAstV遺伝子の検出を試みた。

結果

PCRで，37羽中2羽が陽性であった。それぞれの鶏は，腸管，肝臓がPCR陽性であった。PCR産物の塩基配列決定，相同性解析の結果，2検体ともに英国の研究者が報告している鶏AstVグループ2と高い相同性を示した。ウイルス分離検査で，PCR陽性であった臓器を接種した漿尿膜に肥厚が見られ，この漿尿膜を材料としたPCR検査の結果は陽性であった。塩基配列決定の結果，臓器から検出された遺伝子と100%の相同性を示し，臓器から遺伝子が検出された鶏AstVを分離できたと考えられた。既存プライマーと改良プライマーの検出感度比較の結果，鳥類（鶏）由来AstVでは，既存プライマーで 10^{-3} 倍まで，改良プライマーで 10^{-4} 倍まで検出可能であり，哺乳類（豚）由来AstVでは既存プライマーで 10^{-1} 倍，改良プライマーで 10^{-7} 倍まで検出可能であった。他の動物種の野外糞便材料からの，改良プライマーを使用したAstV遺伝子の検出を実施した結果，牛とハトの糞便から，それぞれ牛，ハトAstV遺伝子と相同性の高いAstV遺伝子を検出することができた。

考察

鶏AstVが検出された2羽は，3日齢のブロイラーで，鶏大腸菌症と診断した1件6羽のうちの2羽であった。病理組織学的検査において，ウイルスが検出された腸管，肝臓にウイルス感染を疑う所見は見られず，本症例へのAstVの直接的な関与は不明であった。養鶏業へのAstVの生産性への影響を明らかにするためには，同様の調査を継続するとともに，健康鶏の保有状況調査など，さらに多くの疫学情報の収集，解析が必要であると考えられた。また，改良プライマーは，家畜におけるAstVの疫学情報収集に有効であり，実際に，鶏，豚以外の動物種（牛，ハト）の野外糞便材料からも，AstV遺伝子を検出できることが証明できた。この改良プライマーは，不明な点が多い動物のAstV疫学情報収集に有効であり，AstVの家畜の生産性への影響を明らかにするための一助になると考えられる。

[参考] 平成23年度 日本産業動物獣医学会 (四国地区) 講演演題

- | | |
|--|--|
| 1 牛ボツリヌス症を疑う症例
中田 翔 (徳島県徳島家保) | 9 EM菌と1%消石灰水を用いたエコロジータンク内サルモネラ排除法の検討
大久保喜美 (徳島県徳島家保) |
| 2 牛の破傷風が疑われた事例
濱田康路 (高知県中央家保) | 10 導入元での感染が疑われた採卵鶏のマレック病
渡部正哉 (愛媛県東予家保) |
| 3 管内プロトセカ乳房炎の浸潤状況調査と防除の取り組み
坂下奈津美 (香川県西部家保) | 11 チール・ネルゼン染色陰性となった鉛中毒2例について
安藝秀実 (高知県西部家保) |
| 4 病性鑑定実施鶏におけるアストロウイルスの検索と検出方法の改良
山本英次 (香川県東部家保) | 12 動物園における口蹄疫および高病原性鳥インフルエンザ対策
渡部 孝 (高知市わんぱーくこうちアニマルランド) |
| 5 豚呼吸器複合病 (PRDC) 対策実施農場におけるPRRS馴致例
阿部敏晃 (徳島県徳島家保) | 13 自然哺育における黒毛和種子牛の早期離乳試験
上村圭一 (香川県畜試) |
| 6 <i>Salmonella Choleraesuis</i> による豚サルモネラ症の2例
南 明博 (高知県西部家保) | 14 チューブ式受精卵移植器利用による受胎率向上対策
稲垣 祝 (愛媛県南予家保宇和島支所) |
| 7 採卵鶏に発生した鶏脳脊髄炎
森光智子 (高知県中央家保) | 15 鶏に対する中鎖脂肪酸カルシウムの利用方法の検討
富久章子 (徳島県立農林水産総合技術支援センター畜産研究所) |
| 8 N農場における育成率向上に向けての衛生対策
橘川雅紀 (高知県西部家保高南支所) | |

[日本小動物獣医学会]

小地区—4

犬における乳腺腫瘍と卵巣子宮病変との関連性についての検討

入江充洋, 三好拓馬, 大竹祐蔵, 尾上 翠, 鈴木ひとみ, 町田誠一郎

四国動物医療センター・香川県

はじめに

犬の乳腺腫瘍と卵巣や子宮との関連は、早期卵巣子宮摘出術によって乳腺腫瘍の発生率が低下することが明らかにされている。また、乳腺腫瘍におけるエストロゲン並びにプロゲステロンレセプターの発現は、およそ50%であり乳腺良性腫瘍に多く発現することも報告されている。しかし、乳腺腫瘍症例における卵巣子宮摘出術の有効性について統一見解は得られていない。一方、日常臨床で乳腺腫瘍症例において同時に卵巣子宮摘出術を施した場合、卵巣または子宮に病変が多い印象を受けるが、乳腺腫瘍と卵巣子宮病変との関連についての報告は見当たらない。そこで、乳腺腫瘍症例における卵巣子宮病変の発生率を把握し、良悪性や予後など乳腺腫瘍と卵巣子宮病変の関連性を調査した。

材料及び方法

乳腺腫瘍と卵巣子宮病変との関連性を3方面から調査した。1番目の調査として、2005年4月から2011年3

月までに当センターと協力していただいた国内3動物病院(計4施設)に来院した犬の乳腺腫瘍症例において、乳腺腫瘍摘出時に卵巣子宮を同時に摘出した171例を用いて乳腺腫瘍のTNM分類、病理組織学的検査、卵巣子宮病変の有無並びに種類などを確認し、3年間追跡し予後を調査した。2番目の調査として、当センターと国内2動物病院(計3施設)において2010年に卵巣子宮疾患と診断し卵巣子宮を摘出した犬75例について、卵巣子宮病変の種類と過去の乳腺腫瘍発生率を調査した。3番目の調査として、国内3動物病院に調査協力を依頼し、乳腺腫瘍が発生した104例の雌犬において、乳腺腫瘍単独で摘出術を実施し、追跡期間3年以内に卵巣子宮疾患を発症する罹患率を調査した。研究様式は回顧的研究で、統計処理はフィッシャーの正確確率検定などJMP9コンピューターソフト(SAS Institute Japan(株), 東京)を用いた。

成 績

第1調査: 171例の平均年齢は、114.8 ± 33.4カ月齢

(≒9歳7カ月齢)で、体重の中央値は5.6kg(1.5~30.6kg)であった。乳腺腫瘍は、ステージ1が134例(78.3%)、ステージ2は23例(13.5%)、ステージ3は14例(8.2%)であった。病理組織学的に悪性乳腺腫瘍は67例(39.2%)であった。単一腫瘍は59例(34.5%)で、単一腫瘍の悪性比率は32.2%、複数腫瘍の悪性比率は、42.9%であった。卵巣または子宮に病変が認められたのは110例(64.3%)で、卵巣52例(30.4%)、子宮88例(51.5%)、卵巣と子宮共に病変が認められたものは30例(17.5%)であった。卵巣病変は、卵巣嚢腫55.8%、顆粒膜細胞腫13.5%と続き、子宮病変は、腺筋症28.4%、子宮内膜過形27.3%、子宮内膜炎15.9%と続いた。悪性乳腺腫瘍の卵巣子宮病変は、44例(65.7%)にみられ、卵巣病変40.3%、子宮病変46.3%、卵巣子宮病20.9%にみられた。病理組織学的に悪性と診断された群($P=0.01$)と、卵巣子宮に病変の認められた群($P=0.005$)、とくに卵巣に病変を認めた群($P=0.007$)で予後は有意に悪い結果であり、卵巣に病変を有する死亡率のオッズ比は2.2倍であった。

第2調査:卵巣子宮疾患により卵巣子宮全摘出術を実施した平均年齢は、 109.3 ± 40.9 カ月齢(≒9歳齢)、

体重の中央値は7.6kg(1.45~42.55kg)であった。子宮蓄膿症と内膜炎が54例(72%)で、顆粒膜細胞腫は12例(16%)であった。乳腺腫瘍の既往歴がある症例は、12例(16%)で、卵巣子宮摘出時に乳腺腫瘍を併発している例は12例(16%)であった。第3調査乳腺腫瘍摘出術後に卵巣子宮疾患のため卵巣子宮を摘出した症例は、8.7%であり期間の中央値は127カ月であった。

考 察

乳腺腫瘍症例の3/5に卵巣または子宮に病変が認められた。これら全例が臨床症状を発現する卵巣子宮疾患には至らないことが示唆された。しかし、乳腺腫瘍や卵巣子宮疾患は高齢で好発する傾向にあることから、乳腺腫瘍症例に対する卵巣子宮摘出術は卵巣子宮疾患の予防を目的として実施することを考慮すべきであると考えられた。また、乳腺腫瘍の予後判定の一つとして卵巣病変の有無が有用であると考えられた。卵巣病変を有する群の予後が悪いという結果は、悪性乳腺腫瘍において女性ホルモンレセプターの発現率が低いという報告とは一致しない興味深い結果であり、今後追究すべき点であると考えられた。

[参考] 平成23年度 日本小動物獣医学会(四国地区)講演演題

- | | |
|--|---|
| 1 波状のヒゲを持つネコの白血球陽性率に関する検討
森下正隆(にいはま動物病院・愛媛県) | 10 肺葉捻転のフレンチブルドックの一例
三好紀彰(松山ほうじょう動物クリニック・愛媛県) |
| 2 <i>Orientia tsutsugamushi</i> 感染が疑われた犬の一症例
井出直樹(ロビンス動物病院・徳島県) | 11 偽副腎皮質機能低下症の犬の1例
三谷 聡(あけぼの動物病院・徳島県) |
| 3 同腹仔で認められた若齢猫の食道疾患
山崎裕之(やまさきペットクリニック・香川県) | 12 診断に時間を要した犬の腺外分泌不全の一例
一色和之(いっしき動物病院・愛媛県) |
| 4 全身性皮下気腫を伴った黄色腫症の雄セキセイインコ
の一例
高岡 妙(動物病院うずら堂・高知県) | 13 犬の前十字靭帯断裂に対しSOP-TPLOを適応した
2症例
井野寛之(にいはま動物病院・愛媛県) |
| 5 犬における乳腺腫瘍と卵巣子宮病変との関連性につ
いての検討
入江充洋(四国動物医療センター・香川県) | 14 ボルゾイの橈骨および尺骨変形に対し矯正骨切りを
行った1例
東条吉晃(東条動物病院・香川県) |
| 6 子宮断端に腫瘍が発生した犬の2例
横山知里(宇野動物病院・愛媛県) | 15 ミニチュアダックスフンドにおける胸腰部椎間板ヘル
ニアの4症例
船橋めぐみ(すぎき動物病院・香川県) |
| 7 犬の胆嚢腺腫の一例
杉村博幸(さくら動物病院・高知県) | 16 重度肺動脈狭窄症の犬に対し人工心肺下手術にて肺
動脈弁形成術を行った一例
須崎信茂(すぎき動物病院・香川県) |
| 8 腫瘍性脊椎骨融解病変のオルソボルテージ放射線照
射による疼痛管理
三好拓馬(四国動物医療センター・香川県) | 17 犬の周術期における血液ガス測定値の変化
久保 剛(久保動物病院・香川県) |
| 9 尿管にステントを使用した犬の2例
渡邊真衣(宇野動物病院・愛媛県) | |

動物由来感染症対策における医療、獣医療、行政の連携について ～徳島県下の犬の *Burucella canis* 感染状況調査を通して～

久米明德¹⁾、清水俊夫²⁾、坂東英明²⁾、石田真理子²⁾、魚住佳世¹⁾、篠原 敬²⁾

1) 徳島県食肉衛生検査所, 2) 徳島県動物愛護管理センター

はじめに

本県では、2004年度に『徳島県動物由来感染症対策検討会』を設置し、動物由来感染症対策の充実・強化に努めている。この検討会においては、(1)疫学情報の収集及び提供体制の整備 (2)危機管理体制の整備 (3)医療・獣医療・行政の連携体制の構築を重要課題として位置づけている。このため、従来から日本紅斑熱、つつがむし病、狂犬病など動物由来感染症の感染実態調査や狂犬病発生時対応マニュアルの作成及び検証のため実地訓練等を実施してきた。

一方、*Brucella canis* 感染症は、感染動物の流産汚物や尿等、感染動物に顔や口の周囲を舐めさせるなど、感染動物との直接接触により感染する。人での症状は、発熱、関節痛などで、ハイリスク者は、獣医師や犬繁殖業者等である。ブルセラ症が感染症法の第4類感染症に指定されて以降、2011年9月までに感染者16例が報告されているが、うち10例が*B. canis* 感染例と推定されている。また、近年、一般家庭の飼い犬への感染の広がりや国内犬繁殖施設等における集団発生事例が多数報告されている。

今回、本県における犬の*B. canis* 感染状況を明らかにするとともに、譲渡後、抗体検査により陽性が判明した犬（以下、「陽性犬」という。）、譲渡先の先住同居犬（以下、「同居犬」という。）及び陽性犬の元飼養者に対して医療・獣医療・行政が連携し、抗体検査等の健康管理を行うなど一定の成果を得たので、その概要を報告する。

材料及び方法

2005年9月から2011年2月までに動物愛護管理センター（以下、「センター」という。）に収容された飼い犬133頭、野犬310頭、繁殖用犬41頭計484頭の血清を供試した。抗体検査はブルセラ・カニス凝集反応用菌液（北里研究所）を抗原としたマイクロプレート凝集反応により実施した。血清最終希釈160倍以上で凝集反応を示すものを陽性とした。

結果及び考察

陽性率は、2.5%（12/484件、野犬：2.6%、飼い犬：2.3%、繁殖用犬：2.4%）であった。国内の2～5%の飼い犬が感染歴を持つと推定されているが、本調査により、飼い犬のみならず野犬及び繁殖用犬において

も同様の抗体保有状況であることが明らかとなった。陽性検体のうち11件は、飼い犬及び野犬で、センターでの収容期間を経た後、殺処分となっているが、1件は、犬繁殖業者の登録取消しに伴い緊急避難的に収容した犬のうちの1頭で、臨床獣医師を通じて譲渡されたものである。抗体検査を実施したところ陽性であったため、当該獣医師と連携の上、陽性犬と同居犬2頭の抗体検査を実施したが、いずれも陰性であった。

感染症法や家畜伝染病予防法においては、抗体陽性犬や人への感染防止対策等について特段の規定はないが、ブルセラ属菌が慢性化し易く、宿主動物のリンパ節等に潜んでいた菌が宿主動物の体調等により活発化し、飼養者や同居犬に感染することを防ぐため、当該獣医師により陽性犬に対して投薬治療を行った。投薬治療終了後、これら3頭の抗体検査を実施し、陰性を確認した。元飼養者である元犬繁殖業者は、長期間にわたり陽性犬と接触しており感染の可能性も否定できないことから、感染症担当課及び医療機関と連携の上、医療機関での受診及び採血を経て抗体検査を実施し、陰性を確認した。

動物由来感染症には、狂犬病等人の生命に重大な危機を及ぼす疾病からブルセラ症のように重篤な症状は示さないものの、身近なペット動物から感染の機会が多く、明らかに生活の質の低下を招く疾病までその特性は様々である。感染症法に基づく積極的疫学調査や届出対象に該当しない疾病であっても疾病の特性や動物との関与の仕方等を総合的に判断し必要な対策を講じることが重要である。

一般的に医療関係者や感染症対策行政担当者の動物由来感染症やその対策に関する認識は必ずしも高いものではない。ペット動物との過度な接触が行われる飼養形態が増大する中、身近なペット動物から動物由来感染症の感染や感染拡大を未然に防止するためには、このような調査研究を積み重ねていくとともに、関係者への正確な知識の普及啓発と関係機関における情報の共有化等連携の重要性を動物行政担当者や獣医療関係者から発信し続けていくべきである。

本調査においては、行政が抗体検査や関係機関の連絡調整を担い、医療及び獣医療との三者連携の様態となったが、医療機関・獣医療機関では、患者や動物を診断・治療する過程において動物由来感染症やこれを疑う症例に遭遇する機会が十分に想定される。今後、医師と獣医師が相互に患者や動物の診断・治療に基づく情報を直接交換することにより共有化を図り、動物由来感染症の感

染防止や感染拡大に資するとともに、人と動物の健康増進を図るための体制を構築することが課題であり、本調

査の事例をもとに一層の取り組みを進めたい。

〔参考〕平成23年度 日本獣医公衆衛生学会（四国地区）講演演題

- | | | | | | | | |
|---|--|--|---|--|---|---|--|
| 1 による行動治療の一症例について
西岡道尋（徳島県獣・動物愛護推進事務所） | 2 保護および飼育下の猛禽類における薬剤耐性食中毒原因菌の保有
早川大輔（高知市わんぱくこうちアニマルランド） | 3 動物由来感染症対策における医療，獣医療，行政の連携について ～徳島県下の犬の <i>Burucella canis</i> 感染状況調査を通して～
久米明德（徳島県食肉衛検） | 4 炭疽を疑う病牛から分離された <i>Clostridium sporogenes</i>
近森和加（高知市食肉衛検） | 5 と畜場に搬入された豚におけるE型肝炎ウイルス遺伝子保有状況について
森松清美（愛媛県食肉衛検センター） | 6 牛の肝膿瘍の発生状況及び発生原因の一考察
内田真輔（香川県食肉衛検） | 7 2007/2008年シーズンのノロウイルスGIIの集団発生事例・散発事例・不顕性感染の分子疫学的比較
細見卓司（高知県衛研） | 8 リアルタイムPCRを用いた細菌の生死判別方法の検討
市原ふみ（徳島県食肉衛検） |
|---|--|--|---|--|---|---|--|